



## 5-2 関係詞と疑問詞との区別

### —— 構造では判断ができないが...

#### 1 関係詞も疑問詞も構造は変わらない

p.027で触れたように、wh-系の語は関係詞と疑問詞を兼用します。whatも例外ではありません。

#### 《 what + 名詞欠落文 》

- ① 疑問代名詞：何が/を～するか
- ② 関係代名詞：～するもの/こと

whatは疑問詞も関係詞も後続は名詞欠落文で、全体も名詞節なので形からは判別はできません。結局は意味によるしかありません。

ただし、what そのもので判別ができなくとも、周辺に判別の足がかりがないわけではありません。**what**が関係詞でなく疑問詞の場合、**ask, know, discuss, remember, have no idea, imagine**のような動詞(思考・認識・発言系)や、**decide, determine**などの動詞(決定系)と関連することが多くなります。

- He does not **know what** it is like ● to be poor.

it is to be poor以下を受ける仮主語です。what節全体はknowの目的語となる名詞節ですので、構造は関係詞節と全く同じですが、思考系動詞knowの目的語ということを考慮し、疑問詞ととることができます。

【訳】「彼は貧乏とはどういうものかを知らない⇒貧乏の味を知らない」

- They **discussed what** they could have done to avoid the conflict.  
\* avoid ～を避ける conflict 紛争

what節はdiscussの目的語であることから疑問詞と考えます。

【訳】「彼らはその紛争を避けるのに(やろうと思えば)何ができたであろうかを話し合った」

ただ、この方法も完全というわけではありません。

- I don't **remember what** he said.

- ① 「彼が何を言ったか覚えていません」⇒ 疑問詞
- ② 「彼が言ったことを覚えていません」⇒ 関係詞

のような場合はどちらともとることが可能です。次は「オバマ演説」からの引用です。

- ① Now, there are some who suggest that our system cannot tolerate too many big plans. ② They have forgotten what this country has already done; what free men and women can achieve when imagination is joined to common purpose, and necessity to courage. [Obama演説、一部略]

\* tolerate ～に耐える achieve ～を達成する courage 勇気  
第②文ではwhat節が2つ登場しています。2つ目は;(セミコロン)の後ろに続いています。ともにforgetの目的語となっています。

- ▶ They have forgotten  
[ **what** this country has already done ];  
[ **what** free men and women can achieve  
{ when imagination is joined to common purpose,  
and necessity (is joined) to courage } ].

2つ目のwhat以下は、「これからのことなのではっきりわからない」ということで疑問詞ととるのが妥当ですが、最初のwhat以下は疑問詞と考えても関係詞と考えてもどちらとも通ります。結局はp.027で触れたように、wh-の持つ「未確定」という意味がここでも前面に出てきているわけです。

【訳】「①さて、我々の体制ではあまりにも多くの大計画に耐えられないではないかという人もいる。②そういう人はこの国が成し遂げてきたこと(何を成し遂げてきたか)、および、想像力が共通の目的と、そして必要が勇気とそれぞれ結びついたとき、自由な男女が達成できること(何を達成できるか)を忘れている」

#### 2 関係形容詞か疑問形容詞かの判別も同じ

whatの直後に「無冠詞名詞+名詞欠落文」と続く場合の判別も同様です。